

4月16日付FBにおける岩田氏の記述	どこが偏向か
<p>鎌倉の地域政党を解散した当事者の女性議員について新たな情報が入りました。</p> <p>この現職の女性議員は、4月の市議会議員選挙に出ないことを決めましたが、何と10月の市長選挙に出る準備を始めているとの情報が入ったのです。市役所移転賛成の立場です。つまり、松尾崇現鎌倉市長の政策を引き継いで出馬するというのです。驚きました。</p>	<p>「市長選に出る準備を始めている」とは偏向どころの話ではありません。驚いたのは、根も葉もないことを書かれた私の方です。情報の出どころ示さなくても、伝聞表現なら何を書いても許されるとお思いなのでしょうか。</p> <p>このような加減な情報を拡散することは、御自身の信用を低下させます。</p>
<p>この地域政党の神奈川県本部の傘下で同じ名前で地域政党活動に参加する別の市町村の議員たちは、いずれも行政を監視する活動をしています。横浜市では市役所移転反対の立場で活動していました。</p> <p>しかし、なぜか鎌倉市では市役所移転賛成を表明し、基本設計予算案にも賛成する立場をとってきたのです。市民からの批判が相次ぎついに鎌倉の地域政党は解散に追い込まれました。</p>	<p>地方自治体は二元代表制で、議会に首長の与党・野党の区分はありません。神奈川ネットの各「地域ネット」は、首長に対しては政策ごとに是々非々の立場です。横浜市役所移転は中田宏市長時代の用地購入契約の問題をはらみ、現在地での建て替えも土地の要件として可能だったもので、鎌倉市とは全く異なるケースです。</p> <p>ネット鎌倉が40年の歩みに終止符を打つのが「市民からの批判が相次」いだからだというのは全くの言いがかり。「岩田氏とそのお仲間=市民」ではありません。</p>
<p>2期で議員を交代するとの地域政党の綱領を無視してこの女性議員は3期目も出馬しました。無所属で出て受かったら地域政党の会派に堂々戻って議員活動を始めたので、「選挙公報」に虚偽記載をした容疑で地検に刑事告発されたいきさつもあります。</p>	<p>神奈川ネットは、県内「地域ネット」の横並びのつながりで、主体は地域ネットです。ネット鎌倉は保坂の3期目出馬を決断しましたが、神奈川ネットは公認ませんでした（注）。</p> <p>私は4年前の選挙の前も後もずっとネット鎌倉という地域ネットおよび議会会派に所属しており、選挙公報にネット鎌倉の議員であることを肩書として記載したのは虚偽でも何でもありません。刑事告発をしたのは他でもない岩田氏で、形式が整っていれば受理されますが、すぐに不起訴決定がされました。</p>
<p>地域政党が「タウンニュース」の意見広告代金を支払った件で、政治資金規正法に反する資金のやり取りの疑惑も指摘され、こちらも地検に刑事告発されています。不起訴にはなりましたが、数々の問題を過去に指摘され、ついに地域政党を解散したのに、何と市長選挙に打って出るというのです。</p>	<p>この刑事告発をしたのも岩田氏です。情報公開請求で資料を集められたようですが、疑惑のストーリー作りには無理（勘違い）がありました。「数々の問題を過去に指摘」したのも全て岩田氏です。</p> <p>もちろん、ネット鎌倉の解散とは全く関係がありません。</p>
<p>この女性議員は、かつて、かながわ市民オンブズマンの事務局長をつとめていた経歴をお持ちです。オンブズマン活動は、行政をチェックし、公金の使い方をただすことを目的としているはずです。しかし、この方は、鎌倉市の議員として、市役所移転のための位置条例改正案に賛成し、一般会計予算案にも賛成の態度をとりました。</p> <p>市役所移転は財政破綻を招くとして反対する市民たちに対し、「手狭で老朽化が著しい市庁舎は移転し新築するのが最良の選択」とまるで市長を擁護するかのような言動を繰り返してきました。</p>	<p>元宮城県知事の浅野史郎氏は、市民オンブズマンを「私たちの敵だ。しかし必要な敵だ。」と評しました。「全国市民オンブズマン連絡会議に属する市民オンブズマン」であれば、行政情報を精査し、大局を捉えて判断するので、自治体の建設事業を何でも無駄遣いと決めつけるようなことはしません。</p> <p>市役所移転が財政破綻を招くと煽ることに対しては「まちづくりレポート・ミニ版号外」で異を唱えたばかりですが、これは市長の擁護などではなく、ネット鎌倉の政策的主張です。</p>

<p>令和7年度(2025年度)一般会計には、戸別収集事業を先行実施する予算も含まれていました。この方が属する地域政党は、コストが甚大にかかるとして、道が狭く階段の上の家も多い鎌倉市にはそぐわないとして、かねてより戸別収集には反対してきたはずです。なのに、一般会計の審議では賛成討論までしました。</p>	<p>戸別収集の実施経費は、既に2024年6月議会の補正予算で2025年度から4年間の経費の債務負担行為を議会が賛成多数で認めています。ネットはこの補正予算案に反対しました。一般会計の新年度予算案は新年度の市の事業全体に関するものですから、賛成しかねる事業が含まれていても、総体として判断します。</p>
--	--

<p>民意から完全に乖離してしまっているとして、鎌倉では地域政党を維持できなくなったのに、市長選挙に打って出るとは、もはや返す言葉もありません。</p> <p>市民の目線はそんなに甘いものではないことをお伝えしておきます。5月の連休明けにご自身の後援会の総会を開く告知をしているとの情報も入りました。4月の市議会議員選挙の結果を見て態度表明するつもりなのかも知れません。何としても移転反対勢力を増やすねばならないとの決意を強めました。負けるわけにはいきません。</p>	<p>市役所移転反対を唱える岩田氏とは立場が異なることを「民意から乖離している」とおっしゃっています。市役所移転反対を唱えるSNSや街宣活動には、市役所移転に反対する方たちが共感して集まてくるのであり、2022年12月議会で位置条例改正案は成立しませんでしたが賛否は賛成16人／反対10人で賛成が僅に過半数でした。この2点を理由に「民意=市役所移転反対」とは言えません。</p> <p>「地域政党を維持できなくなった」という文脈も、事実とは異なります。</p> <p>ネット鎌倉は、昨今の政治家・議員志望者が自分の選挙のために俄かに作る政治団体とは全く異なり、社会運動の中から生まれ、自分たちの仲間(40年間に15人)を議会に送ってきた地域政党です。約200人の会員のひとり外側に多くの支持者がいます。そのネット鎌倉が組織として主体的な判断で解散を選択しました。</p>
--	---

4月18日付FBにおける岩田氏の記述	どこが偏向か
<p>解散すると表明したはずの神奈川ネットワーク運動・鎌倉がまるで市長を擁護するようなチラシを撒いています。「まちづくりレポート・ミニ版(号外)」(2025年4月5日発行)がそれです。</p> <p>「『市役所移転にかかる整備費310億円』とは?~姿勢が問われる、選挙のための単純化」との見出しをつけ、【中略】……といった文章を並べ、市民団体の危惧に反論しています。これは、かねてより市長ら鎌倉市の幹部が主張してきた論理そのものです。</p>	<p>ネット鎌倉発行の「まちづくりレポート」は2月10日発行の173号には、同号が最終号であるという告知を載せています。一方「ミニ版」は、これまでも情勢に応じて議員団が発行し、駅頭活動などで配布してきたものです。</p> <p>財政の仕組みを多少なりとも知るはずの現職議員までが「市役所移転整備費310億円」と喧伝するのは看過できないので、緊急に発行しました。左記【中略】部分は、本サイトのひとつ前の記事の現物をご覧ください。</p>
<p>北海道の北見市は、市庁舎に118億円もの建設費をかけたため、借金が重く市の財政にのしかかり、夕張市のような深刻な財政破綻を招く懸念が出たと指摘されています。同市は「財政が厳しく、今までのような市民サービスの維持が難しくなった」として市民への財政状況の説明会を開催する事態となっています。鎌倉市がそうならない保障はどこにもありません。</p>	<p>議員には今鎌倉市で起こっていること、起きようとしていることを市民に説明する責任があります。市長擁護とか、行政ベッタリなどというレッテルを貼るのは貼りたい方たちの勝手ですが、私は極めてスタンダードな社会常識に基づく判断をし、説明に努めています。</p> <p>よい機会なので、北見市の事例については本サイトの次の記事で詳述します！</p>
<p>【中略】オンブズマンの元事務局長たる方がいる地域政党(解散表明)が、前出のような行政ベッタリのチラシを市議会議員選挙前に撒くとは、言葉を失います。撤退する市議会会派の最後の花道を汚したとも言える内容です。いかに民意と乖離してしまったか、そのことを自ら示したチラシとも言えます。有権者の怒りの火にかえって油をそいでしました。</p>	<p>私は、かながわ市民オンブズマンの元事務局長で、この12年間は5人いる代表幹事の1人です。市民オンブズマン=反首長・反体制運動ではなく、自治体の事業について市民自治や財政論的・法的観点から是正を求める団体です。</p> <p>深沢に新庁舎を整備し、跡地に市民の拠点を創出することは、市民全体の利益になります。チラシを見て怒ったのは岩田氏とお仲間では？</p>